

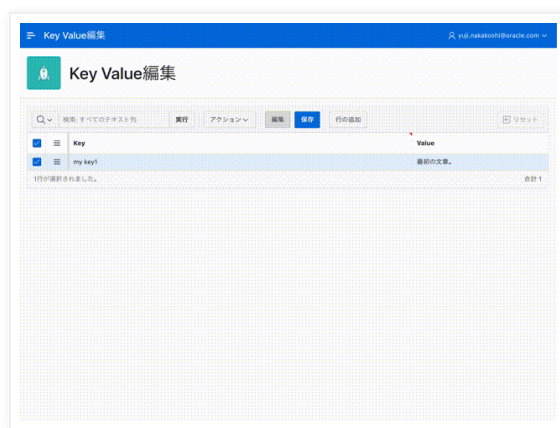
日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年2月12日 金曜日

対話グリッドの列の値をダイアログを開いて編集する

対話グリッドの列の値の編集をインプレースではなく、ダイアログを別を開いて編集したい、という話があったので実装を考えてみました。その作業ログです。



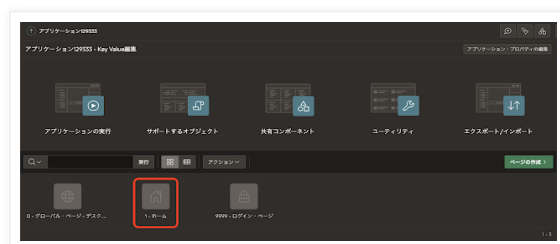
実装の準備

最初にクイックSQLの以下のモデルから、表KVT_VALUESを作成します。

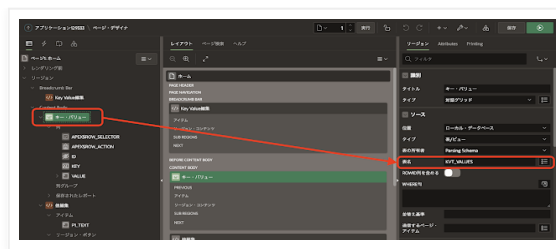
```
# prefix: kvt
# semantics: default
values
  key vc8 /nn /unique
  value vc4000
```

この表をソースとした対話グリッドのページを作成します。列VALUEがダイアログを開いて編集する対象になります。

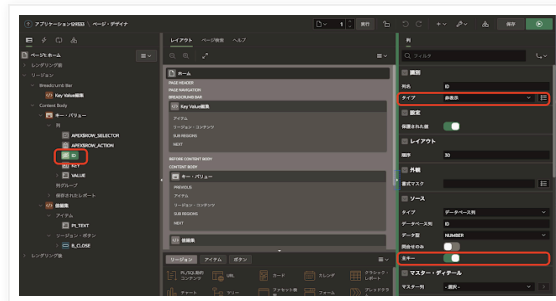
名前を**Key Value編集**とした空のアプリケーションを作成します。**ホーム**のページに対話グリッドのリージョンを追加します。



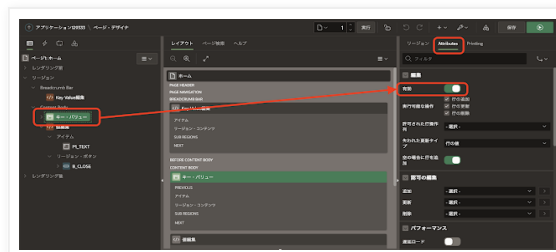
Content Body以下にリージョンを追加し、**タイプ**を対話グリッド、**ソースの表名**にKVT_VALUESを選択します。



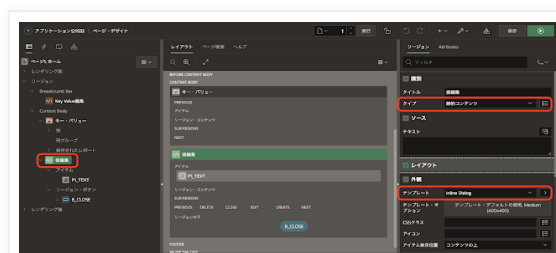
列が認識されるので、その中からIDを選択して、**タイプ**を**非表示**、**主キー**を**ON**に変更します。



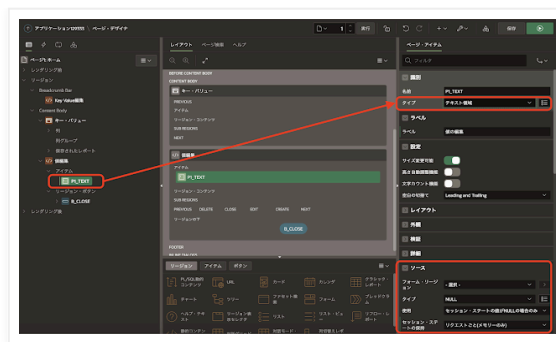
対話グリッドのリージョンの**Attributes**を開いて、**編集**を有効にします(**ON**にします)。



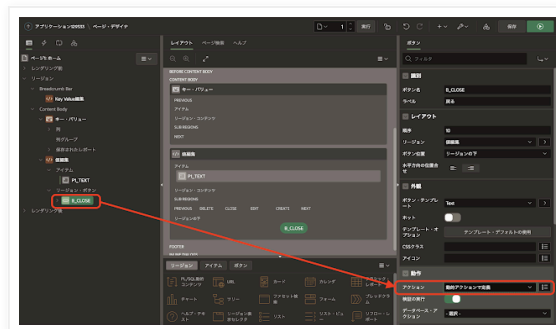
続いて、選択された値を編集するためのダイアログとなるリージョンを作成します。Content Bodyに**タイプ**が**静的コンテンツ**となるリージョンを作成します。**外観のテンプレート**を**Inline Dialog**に変更します。



作成した静的コンテンツのリージョンに、変更する値を保持するページ・アイテムを作成します。以下では名前を**P1_TEXT**と設定しています。**タイプ**は**テキスト領域**、**ソースのフォーム・リージョン**は**NULL**(選択しない)、**タイプ**も**NULL**、**使用とセッション・ステートの保持**の選択は動作に影響を与えませんが、それぞれ、**セッション・ステートの値がNULLの場合のみ**、**リクエストごと(メモリーのみ)**とし、設定された値がセッション・ステートとして取り扱われない（永続化されない）ようにしておきます。



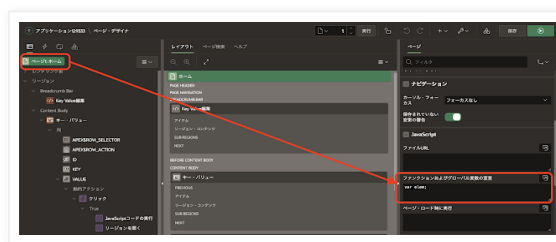
リージョンを閉じるためのボタンを追加します。ボタン名をB_CLOSEとし、動作のアクションは動的アクションで定義を選択します。



動的アクションの定義

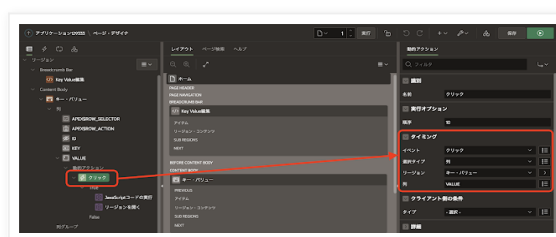
編集したい列VALUEをクリックしたときにインライン・ダイアログを開く様にします。最初にクリックした対象を保持する変数elemをグローバル変数として定義します。ページのプロパティに含まれる、**ファンクションおよびグローバル変数の宣言**として以下を記載します。

```
var elem;
```



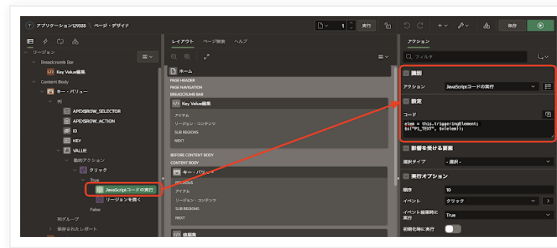
列VALUEがクリックされたときにダイアログを開く動的アクションを定義します。このとき、クリックした列VALUEに含まれる文字列を、ダイアログ上のページ・アイテムP1_TEXTに移入します。

列VALUEをクリックしたときに動的アクションが実行されるように**タイミング**を設定します。以下の例では、**イベントをクリック**、**選択タイプ**を列、**リージョン**は**キー・バリュー**、**列**は**VALUE**と設定しています。

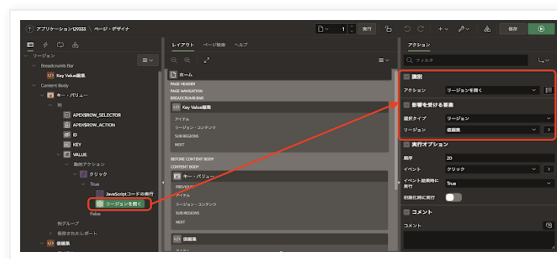


列VALUEをクリックしたときに実行されるアクションを定義します。最初に列VALUEからページ・アイテムP1_TEXTへ文字列を移入するJavaScriptのコードを実行します。**アクションをJavaScriptコードの実行とし、設定のコードに以下を記述します。**

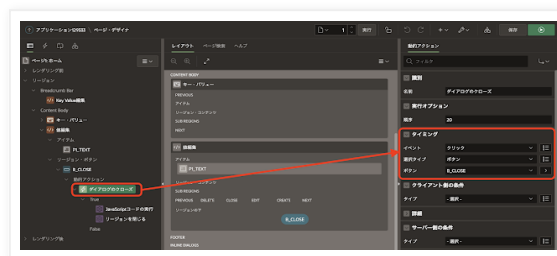
```
elem = this.triggeringElement;  
$s("P1_TEXT", $v(elem));
```



文字列が移入できたところで、インライン・ダイアログを開きます。**リージョンを開くためのアクション**を定義します。**影響を受ける要素は、選択タイプがリージョン、リージョンは値編集**(インライン・ダイアログのリージョン名)としています。

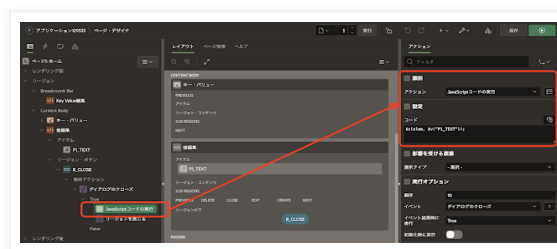


次に、インライン・ダイアログ上のボタンB_CLOSEをクリックしたときに実行される動的アクションを定義します。**タイミングはイベントがクリック、選択タイプはボタン、ボタンはB_CLOSE**とします。

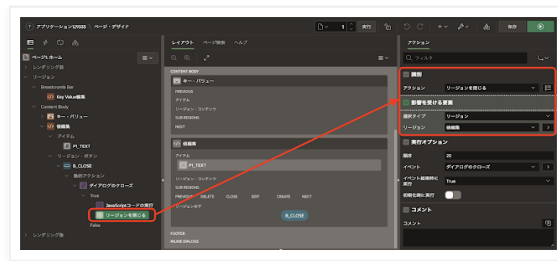


ボタンのクリック時に実行されるアクションとして、ページ・アイテムP1_TEXTに設定された値を、クリックした列VALUEに戻す処理を定義します。**アクションとしてJavaScriptコードの実行を選択し、設定のコードに以下を記述します。**

```
$s(elem, $v("P1_TEXT"));
```



続いて、開いているリージョンを閉じるアクションを定義します。**アクションとしてリージョンを閉じる**を選択し、**影響を受ける要素として、選択タイプをリージョン、リージョンを値編集**(インライン・ダイアログのリージョン)とします。



以上で最初のGIF動画で見ることができる実装になるはずです。

動的アクションの実行が列VALUEをクリックしたときではなく、列VALUEをクリックしてテキスト領域が開いた後に、そのテキスト領域をクリックして実行されるようになっているのは、ちょっと残念な感じではあります。

最新の対話グリッドでは列のタイプにテキスト領域、Markdownエディタ、リッチ・テキスト・エディタをそのまま指定できるので、基本的にこのような実装はしないのではないかと思います。列がJSONの場合であれば、直接JSONを記述するのも大変ですし、間違える可能性も大きいので、値の取り出しに次の様なコード(名前nameと年齢ageを含むJSONを仮定しています)、

```
elem = this.triggeringElement;
let v = $v(elem);
let jo = JSON.parse(v);
// $s("P1_TEXT", v);
$s("P1_NAME", jo.name);
$s("P1_AGE", jo.age);
```

値の設定に次の様なコードを設定することで、入力の助けにはなるでしょう。

```
// $s(elem, $v("P1_TEXT"));
let jo = {};
jo["name"] = $v("P1_NAME");
jo["age"] = Number($v("P1_AGE"));
$s(elem, JSON.stringify(jo));
```

確認に使用したアプリケーションのエクスポートを以下に置いておきます。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/inlinedialogedit.sql>

以上で今回の記事は終了です。Oracle APEXのアプリケーション開発の一助になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 12:44

共有



ホーム



[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
